

ハカルプラス
創業110周年

Hakaru+ ハカルプラス株式会社

三宅 康雄 社長にきく

新たな挑戦の「集合知」 で生コンに貢献

計測機器・システムの製造・販売を手がけるハカルプラス(大阪府大阪市)は今年、創業110周年を迎えた。同社は1952年に国産初となる生コン製造に関する使用材料の記録計を開発納入、その後も各種システムの開発・提供を通じて生コン業界の近代化や製品品質の向上・安定化に貢献してきた。また、今回の節目に合わせて『「はかる」の集合知でひとつ先の課題に挑む』という新たなビジョンを策定しており、新規事業にも積極的に挑戦している。同社の三宅康雄社長に、これまでのあゆみと今後の展望、生コン業界への想いなどをとお聞きした。



生コンの歴史とともに 計測技術で「ひとつ先の」課題解決

「手は創業110周年の感慨を。」
三宅社長は、1916年に大阪市南区瓦屋町で創業した生コン製造者の三宅正勝社長が住居を改造して「竹本電機計器製作所」を設立したのが、創業の始まりだ。戦後に私企業として「竹本電機計器株式会社」を設立し、1952年に「ハカルプラス株式会社」を設立。戦後日本の電力復興に役立つことを目指し、日本全国の電力会社に電気計測計(メータ)を納入して、この経験をもとに元々は電力の計測に特化していたが、1952年、通産省(現・経済産業省)が進める「電力事業の近代化」の一環として、生コン製造業に参入。生コン製造業に参入した当初は、生コン製造業の材料を正確に計量・記録する必要性が高まったことから、電力計測で培った技術を用い、国産初の生コン製造に関する使用材料の記録計を開発・納入した。これにより、重量を用いた従来の計測方法から、紙に記録したものを添付して役所に提出する方式が確立されたという。

残量監視製品を拡充 AI時代見据え製品開発

「生コン業界の最近の状況をどう見るか。」
三宅社長は、近年の生コン業界の推移を見ても、需要の減少は明らかだ。一方で、生コンの需要は、建設業の需要の減少に伴って、住宅やインフラを支える基礎的な需要として、一定の需要は維持されている。その一方で、生コンの需要は、建設業の需要の減少に伴って、住宅やインフラを支える基礎的な需要として、一定の需要は維持されている。

新規事業で農業に進出 生コン業界「絶対に諦めず」

「新規事業で農業に進出。」
三宅社長は、農業分野への進出は、生コン業界の発展と密接に関連している。生コン業界は、建設業の需要の減少に伴って、住宅やインフラを支える基礎的な需要として、一定の需要は維持されている。その一方で、生コンの需要は、建設業の需要の減少に伴って、住宅やインフラを支える基礎的な需要として、一定の需要は維持されている。



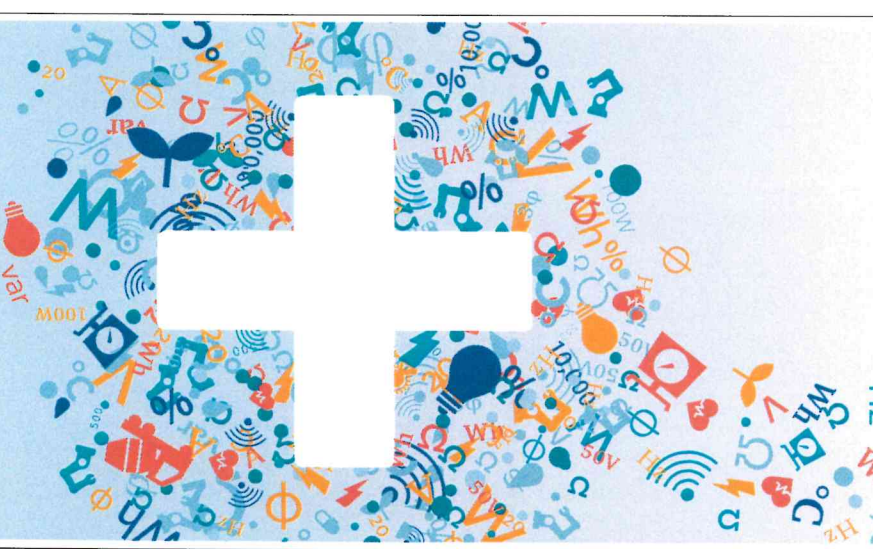
セメントの量を粉じん環境下でも安定計測する「リボ式重量表示器」(H-R-M)も実用化

「はかる」の集合知でひとつ先の課題に挑む。三宅社長は、生コン業界の歴史とともに、計測技術で課題を解決してきた。生コン業界は、建設業の需要の減少に伴って、住宅やインフラを支える基礎的な需要として、一定の需要は維持されている。その一方で、生コンの需要は、建設業の需要の減少に伴って、住宅やインフラを支える基礎的な需要として、一定の需要は維持されている。



葉を挟むだけで硝酸態窒素の量を推定できる「Folina」

「Folina」は、葉を挟むだけで硝酸態窒素の量を推定できる。三宅社長は、農業分野への進出は、生コン業界の発展と密接に関連している。生コン業界は、建設業の需要の減少に伴って、住宅やインフラを支える基礎的な需要として、一定の需要は維持されている。その一方で、生コンの需要は、建設業の需要の減少に伴って、住宅やインフラを支える基礎的な需要として、一定の需要は維持されている。



「はかる」の集合知で ひとつ先の課題に挑む

Hakaru+ ハカルプラス 株式会社